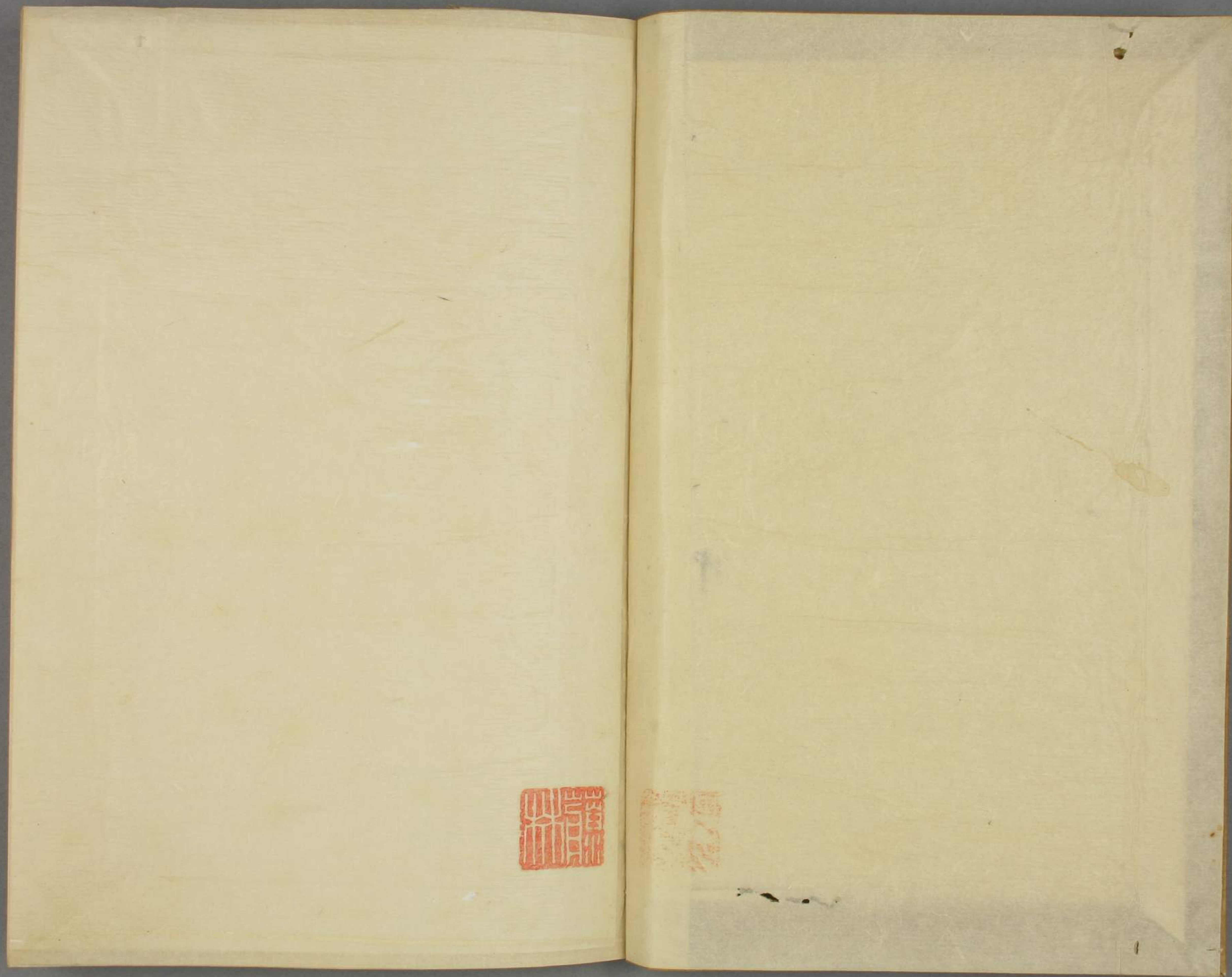




一
調
中

特別
千12
3643
96(2)





松浦物狂 <small>九</small>	賀茂物狂 <small>三</small>	花筵 <small>三</small>	同	<small>三十三</small>
身延 <small>五</small>	鴉鳥川 <small>六</small>	博多物狂 <small>七</small>	高野物狂 <small>八</small>	
鞆滝 <small>一</small>	玉取 <small>二</small>	經山寺 <small>三</small>	一字題 <small>四</small>	
百萬 <small>七</small>	櫻川 <small>八</small>	山婆 <small>九</small>	俊成忠度 <small>十</small>	
二人靜 <small>三</small>	東岸居士 <small>四</small>	杜若 <small>五</small>	源氏供養 <small>六</small>	
雲雀山 <small>九</small>	遊行柳 <small>十</small>	西行櫻 <small>十一</small>	柏崎 <small>十二</small>	
班女 <small>五</small>	雲林院 <small>六</small>	六浦 <small>七</small>	哲願寺 <small>八</small>	
三井寺 <small>一</small>	江口 <small>二</small>	芭蕉 <small>三</small>	半部 <small>四</small>	



蟬丸 卅三
土車 卅四
鳥返船 卅五
盛久 卅六

景清 卅七
碓 卅八
王之殿 卅九
笠ノ殿 卅十

藤戸 卅一
花月 卅二
鉄輪 卅三
常陸帶 卅四

天報 卅五
奇ノ占 卅六
舟橋 卅七
八嶋 卅八

松虫 卅九
錦木 卅十
夜討曾我 卅十一
女郎花 卅十二

忠則 卅十三
清經 卅十四
融 卅十五
道明寺 卅十六

白樂天 卅十七
放下僧 卅十八
菟太報 卅十九
善知鳥 卅二十

蟻通 卅二十一
山波女 卅二十二
野守 卅二十三
隱岐院 卅二十四

同 卅二十五
舞車 卅二十六
同 卅二十七
上宮太子 卅二十八

寫迫 卅二十九
香椎 卅三十
横山 卅三十一
太刀堀 卅三十二

奇ノ占 卅三十三
須广源氏 卅三十四
八景 卅三十五
實方 卅三十六

初瀬六代 卅三十七
高砂 卅三十八
斑女 卅三十九
野宮 卅四十

熊野 卅四十一
三輪 卅四十二
玉葛 卅四十三
置鼓 卅四十四

蘭拍子 卅四十五

一調歩極ノ事

△一調歩極ハ先一投ニ成極ニシヤト切テ可歩夫有切テ
サヘシキシサハノ強字ノハナル極スヘシマが一調ノ習ヒサハ
亦声カケルカケ切ツクスニ去ニ緩クカケテ強シカルクウタ
ハスルヤウニ可四掛

一調歩極常ノ白リハ一位早ク歩四持ノ刻ノ極ハ下ヨリツク
ヤウニテ歩是常ニモ用

サシノ歩出シ極シニツキテ扱甲ヨリ歩出ス歩出シ亦極ノ勾切ヨ

リサハスヤウニ可サ一ウノナカハヨリサハス事一大きニ悪敷ク
サレノ年走ルモノハ別儀ナシシ之ノ年サモノハ年ヨリ前極ツテ
柢シサテ年シ可サ

曲ノ内惣テ年ノ強柢物ノ強ニ當ル有ク

曲ノトノ頭タム夏イム

サレノサ切 ヤ○チヤシ・○ロシヤハハ

又ヤ○チ○ハハ 是ハ一クサリ短シ

サレ落シテサ時強ニ二字シトシ三字シトシトテ有ニ字シトシ

ハユリトシトスニ字シトシハ少シツメカケテ落ス

おぬや法のちん 是ニ字シトシ

先又他世の縁あり 是ニ字シトシ

一調ノ頭ハキレル極ニ可サ

一調ノ強極小教ノ一調ハ大教ノ同シカロク小教ノサカト強

大教ノ一調ハ小教ノ同シカロク大教ノサカト強

サレサ切切ハサレノ強分切シトク切テノワテ強

サレシトス所ハサレノ強分切シ引付テノラスニ強

徳ニウク氣シワム氣ト云事有

大教ハ陽小教ハ陰 徳ノ徳極大教向(ウタヒ陰ニウタフヨク)

小教向(ウタヒ陽ニウクウタフ 太夫ハ陰 脇ハ陽)

曲率大教ノ命尺步支徳ノキル有(シワキル有)大教有步大

教ワケテモ徳ノ句脚ヨリ步能ク徳ノ(キメ句切キ、

步物ニウクノル有甲ニ行而シニ行而回合テ能ク思ヒ入テ

步事ナリ

一調ニ有浪想テノ步極心御如是人

三井寺 一

△イ即安も世々人々成の林乃意々イ中も言砂の尾上の

静焼イきて秋の霜早イるり月もイありイれ初イ漸もイきイ難

波イちイるイ雨イ多イきイ静イの音イはイきイぬイやイ法イ乃イ色イのイえイ イ山寺の

春乃イ多イ言イ来イくイ見イまイ反イ入イ相イのイ静イ子イ花イうイちイりイ々イ然イ立イ

井イ光イもイちイかイとイゆイ然イ乃イ云イとイらイれイぬイえイ言イ外イ行イるイらイれ

味イ肯イとイ井イ心イなイくイ志イ恨イとイとイあイるイ行イ来イあイむイ枕イのイ静イや

響イらイせイ又イ約イ宵イ小イ文イ行イ静イ乃イ声イきイけイハイあイらイぬイ別イ蓮イの

鳥ハ初ハツケとと海ウミきキ色イロ無ナシ海ウミのノ候ウチのノ方カタはハれレのノ声コエとト守モリ
 物モノをヲ又マタハハみミらラくクのノ福フクさサめメ福フクあアらラまマしシ一ヒト層ソウ今イマ思オモひヒ福フク
 小コ火ヒきキふフもモ海ウミ心ココロのノ淋シメ一ヒト小コ池イケ種タネのノほホくクとト思オモひヒをヲ
 花ハナをヲとトあアつツこコをヲつツりリ時トキまマらラくクまマしシ一ヒト月ツキ夜ヨをヲ
 鳴ナくク霜シロ天アメよヨらラくク冷ヒヤまマらラくク江エ村ムラのノ火ヒもモ知チのノうウ小コ木キ
 秋アキのノ種タネ乃ナラむムたタるルをヲくクれレ糸イトもモやヤ通トあアらラまマちチうウはハらラうウ取トル
 ちチとトりリてテあアまマらラくク一ヒト垣カキのノ柵サシまマらラくクうウだダ種タネうウめメらラるル海ウミ
 八ヤチ海ウミ内ウチもモ種タネあアらラまマしシうウのノ末ハタチすスらラくク月ツキもモ心ココロ三ミ井イ寺テラ乃ナラむム
 ちチうウさサうウ取トルまマらラくクうウめメらラるル一ヒトママ夜ヨ

種とさやうに

ちうさう取まらうめらる一マ夜

江口二

カシノ年ナラフ川竹舎尺抄 コウキシシウノ年抄テモ吉
 冬フユをヲあアらラまマしシ一ヒト層ソウ今イマ思オモひヒ福フク
 ちチのノ境サカイよヨまマしシ一ヒト根ネのノ形カタをヲ作ツクらラるルもモ見ミるルもモ中ナカ半ハジメ小コ
 ちチのノ境サカイよヨまマしシ一ヒト根ネのノ形カタをヲ作ツクらラるルもモ見ミるルもモ中ナカ半ハジメ小コ

人よりれ ^{割シトシ} 夏もあさこの窓の秋風 ^{フクテ} ちやうふ ^ア 吹あちてたん
せつ ^ハ の ^ハ 庭 ^ハ も ^ハ 音 ^ハ の ^ハ 建 ^ハ 六 ^ハ 音を ^ハ 守 ^ハ も ^ハ 泣 ^ハ ま ^ハ ー ^ハ くて ^ハ 只 ^ハ 思 ^ハ へ ^ハ 建 ^ハ 奴 ^ハ 身 ^ハ
の ^ハ 行 ^ハ を ^ハ 思 ^ハ ひ ^ハ け ^ハ る ^ハ 弟 ^ハ く ^ハ ち ^ハ り ^ハ り ^ハ め ^ハ の ^ハ 柳 ^ハ 女 ^ハ け ^ハ 福 ^ハ や ^ハ そ ^ハ 淋 ^ハ 哉 ^ハ
^{ネリシテトモ}

雲林院 六

サレ年しこ ^{割シトシ} 花の散はる ^ア ち ^ハ う ^ハ さ ^ハ だ ^ハ の ^ハ ち ^ハ も ^ハ と ^ハ
あ ^ハ る ^ハ ち ^ハ を ^ハ 守 ^ハ り ^ハ 冠 ^ハ の ^ハ う ^ハ ふ ^ハ ち ^ハ つ ^ハ り ^ハ 志 ^ハ の ^ハ ひ ^ハ ち ^ハ や ^ハ
作 ^ハ り ^ハ 是 ^ハ 月 ^ハ も ^ハ 子 ^ハ 今 ^ハ ぐ ^ハ い ^ハ ち ^ハ 井 ^ハ 乃 ^ハ り ^ハ 後 ^ハ 子 ^ハ 方 ^ハ は ^ハ ち ^ハ ら ^ハ 返 ^ハ り ^ハ お ^ハ つ ^ハ り ^ハ は ^ハ

柳打拂すきをえあはく ^{トメ日支}

六浦 七

サレ年しこ ^{香テ} 吹つる鳥の心 ^{割シトシ} 霧 ^ハ 雨 ^ハ ぬ ^ハ る ^ハ 六 ^ハ 白 ^ハ 地 ^ハ 成 ^ハ
知 ^ハ る ^ハ の ^ハ 意 ^ハ も ^ハ ち ^ハ 成 ^ハ る ^ハ を ^ハ 守 ^ハ り ^ハ ち ^ハ ら ^ハ け ^ハ 縁 ^ハ ^{トメ日支}

柳瀬寺 八

サレ年しこ ^ア 三 ^ハ 世 ^ハ 利 ^ハ 益 ^ハ 同 ^ハ 一 ^ハ 神 ^ハ 有 ^ハ 耶 ^ハ や ^ハ 我 ^ハ 方 ^ハ 五 ^ハ 八 ^ハ 劫 ^ハ 耶 ^ハ 法 ^ハ

わくてもいづは屋ふありくそ 極る由のたふれや十悪八邪
富をさるまうす唯心の 上人曰又

雲雀山 九

サレ年しこ 鳴鶴る声速 思ひハ内よあまこと 今昔よ
なう後やいよ さられ山の底つきま愛よ 雲雀山よわくま
あく辰のあし 病よおろきあまうこれわくても 上人曰又

遊行柳 十

サレ年しこ 利生あらたぬ 言子扱有普る言 柳よあま
流人の花やう とうとう風の匂ひより魚の 主物木の及ひ
あし恋知も 氣力あつて強くとままも 上人曰又

西行梅 十一

サレ年ハシリ 千中の花盛らんらや言よあま病ん病んを 馬谷
下行系 柳の心は花の及枯う 清水の地は花まらつ吹

湘澤波也も初ハ トメ同夏

柏山寄 十二

サレ平しこ 暗る死雲のまれ 如獨のまらふよ 山言くせ
死の悔ふり 此邊り船り法もも之界 心伸及流せとや
阿ハ是三言別 身へさす流る川池の連れ滑ん事と
岸まもる下もく 加徳池の流る言何枚くの 今の我
う形りま言れ 彼風よ何人唐の 何とら 稱もも流の

言も何うき 徳光とと作らありや南を改命 トメ同半

二人静 十三

長深あうる赤風よ 言の本流を物と 橋木の美形のみ
そま西川の 西もそまうぬ奥山り 月をあやろまで
今身の子白名の花をみてハ 春の初しおあうてさう
追ふ乃声あうんと トメ同夏

東岸居士

七

サシ年ハシリ又うつとやせんぬらありといんともれハ雲とよ
松と消く後を物思おしの中心とくまろく せう秘つ大
まろころうこゑはあぢいひまろく 心はたそ地さす出法のト有夏

社名

十二

サシ年ハシリ或しとモ 物思は世中の一夜の夢へつては 後召乃
嶽のまや 毛逆人のまへ 三河の風まろかハ夏そ 法道小
白木杜の 物思ふらそりあそく 光善の月あわぬ

るるや 身あておえおめのおを 加松子中おぼろくうら骨筋ふ
る梅人まろくまぬらあそく夜まろくや舞を

源氏伝巻

十六

曲舞ガハ甲テ走りお切ヤ声テ見 帚木乃夜の云乃たハ
お家の賀れ秋乃 只すまろくまろ 明石の浦よ身とほろく
まろく 巻物の本よ竹ん梅う枝の 夜の裏糸ふおくはゆの
まろく昔のけあろく 菊位を東屋 先も蜻蛉の身あろく

夏の海橋 ユツシヒ 徳子御歩鳴して トメ月夜

百万 七

サシ年し三 紀列香テまきく 新務す面け 刻トし弟打モ 足子但て約 ヌクアレライ
玄心流々大井川秋よ ありの尻松の尻小倉の室乃夕福入香ハシリツトリツ
コソツトル 之立マツトル 四片マツケを身き親衣アロハを御群集する此寺の
道のりめん何々マこそひ志西にまろ地りし赤極流不打ヲツサハ極
天竺タシ憲と我知マ之マ西マ子マけりマ首マ雅マと 出マりマあマらマそマりマいマ

甘名マ人マ房マのマ身マろマてマわマとマりマハマ母マをマ出マしマまマぬマて 肝膽して
マろマりマるマ親マ子マ トマ有マ変 尻マのマ尻マ松マのマ尻マ小マ倉マのマ室マのマ夕マ露マ
馬マ鞍マ群マ集 甲マハマ恐マまマきマもマも 糸マもマのマるマ身マ小マハマ恐マれ
マも 何マ々マとマてマひマ志マゆマらマまマりマけマんマす

梅川 八

サシ年ハシテ ちりマのマるマをマちりマのマるマをマ 我もマ夏マ夜マをマ
マもマ水マ乃マ夜マまマこマハ 庭マとマあマらマるマ 波マ子マとマ市マ陰マ市マ此マのマこ

一字類

二五

とら山吹つ〜夜 言や輝よ扇蓮 鶴や晴ふ菊芳紅糸
や冬ら又時夜の糸の房も何れんそれ小高鶴舞禊志いと

月夜

二五

サレ平し三 深き唐高法 般若及軍余の末旅 妙法蓮花
御ま可らむ控方夜 逢ふ難きうえけの花約 トメ同変

飛鳥川

二六

カレ平し三 水田の浮緑 船を知らぬよ 鳴きをぬきやする我心
山踏ふ建ひ屋ふ心くぬく 鳴る葉ハつり身も別夜 トメ同変

物多物ね

二七

浪乃ふ目を送りく 馬如の月かかるとち一馬祢名 借腹とらよ
かきとるり南無阿彌 上メ同変

祀 送

市一

我フケめくテ如テ相テ守テてテ去テのテおテ相テ守テ 礼テ送テ百テ書テ 忘テれテ礼テ見テ
也テも 忘テるテのテあテれ 礼テ心テハテ志テのテおテまテふ 月テのテおテりテあテのテこテ
てテ袖テふテ色テ 望テ山テ後テ乃テめテくテまテてテ内テをテ出テ トテメテ日テ事テ

奥

亦二

カテレテ年テハテシテリ 知テくテ命テマテステリ 他テ也テ一テと 春テ山テ厨テ君テヲテ申テさテく

早テふテ人テのテ竹テをテまテりテくテ家テふテまテめテく 九テ夜テ性テのテ内テあテりテて 我テ人テ
志テつテまテりテぬテすテまテりテく 有テりテまテりテけテりテ反テ 身テもテたテまテりテく
てテ福テもテあテくテ洗テ子テ滴テぬテまテりテくテなテるテ 室テ敷テ座テ打テ拂テちテきテ 上テ有テりテ

輝 凡

三十三

依テまテりテやテ喜テ得テるテのテ名テおテしテのテ都テ屋テ松テ山テすテりテさテりテ
くテまテりテ 又テ初テやテまテつテむテれテ也 相テ女テなテれテ心テはテ
望テ月テのテ弱テ心テ 水テもテちテりテ望テ井テのテ臨テ見テれテたテ物テのテこテろテ

舟橋

四七

橋のこゝろ有る

渡りより合はるうてサ

去りこころ思ひ妻

通ひ列る舟橋のしえ渡り秋乃

岸より見る人影はこれ

頼りや

おふまをとりてみる中れ

ちのせは板

回と踏ま

東海乃

いふ事ぬかし概心の鬼

程なくけ流る海乃

我と身を責く人よ流るを行者の法

味切刀よりまぬぬ心乃

サカ

八嶋

八八

敵よはたて下り惜心八名のめ

舟を捨てた後死すも

第一トメせん

又渡りたの時乃を矢叫びの音震動きり

塩の浦のま船軍

とんふぶゆりせ死

日ふあらしむ八級の

光潮ふ移る八甲乃星の流

舟軍のかけ

川うらまつむとせし程小

時の声とお

浦風成りき

松乃浦風成り

松虫

四十九

音く廣う道とや今ハ濁世

我らふく心も移るや

世ハ皆碎せ

らく我 唯松虫の枯福ふ

常トたん

花の袖面白や

もい織吉のまうをうてうく

日くく笑の多福の中ふ

見くく見くくて米の声めづくきり

葉をうくきるあこの葉の

らあれの袖と

葉をうくきるあこの葉の

草をうくくあいたの京虫のきをうりやのころんむしの

ちんちんちんちん

まうをうてう

めいくくそり

すまや

何たの京の葉をうくく

る何たの京の葉をうくくやゆらん

錦木

五十一

子法奥のきあさもろ

流小我も同きよ

あをやえんはらぬ

うねうらう三年ハらぬ流はきかつまや

錦木ハ

今宵あつしの盃

高きとらす年の袖白く

糸を

まいく

織ハ細布の

ちんちん

成らん

あをやえんはらぬ

水娘清和天皇ノ后宮ニ深敷ノ后是也ヤ才旦ハ長柄ノ御ノ水娘ヤ才
六八菟ト志ノ深川ノ里ノ女也ケリ才十八増尾ノ御ノ妹ニ志死ノ女
是ナリヤ十八周防ノ守ト在原ノ仲平カ娘ナリケリ才二十ハ大和ノ守
徳景カ娘ニ今テ伊豫ニテ有シカ其名ノ所シテ書替テ后宮ノ上
ラハニシコノ前トソ召シケル伊吉ノ社ニ去リテ日救ヲ送り祈
念スルコトセイシキリニ際ナクハ感惠イカテナカラコト救ヲ深ク
カケテモ堅キ神ノ由前ニテシツカニ法施シテ去ラセ宮人トシ
ホシキ老狝ニ此物語ヲ得シハアトヨ対面ノハシメニ

伊勢物語ノ奥儀トシテクシクトカタラシハカツウハソラソロシ目ハ
道ノ御トルナリトテサウナウ物シモイハサリケリ表人ノ中ニトリ
テハ何シカソトリニサラン

後 六七

比叡山延暦寺ノ座主法性房ノ僧正トテ尊キ人市座ス此人ハ三伏
ノ夏ノ夜五更モ未明サルニ九嶽ノ窓ノ前ナ案ノ床ノ邊リニカノ法
水ヲタヘテ三密ノ月ヲスミシルニ妻戸ヲホトクトタタク声ス
ナリ誰ナル後ト思ト戸ヲヒラキ見玉ハ過ニ二月ヤ後ノ

五日ニ世ヲハヤウスト因ヘシテ居然相ニテシハシニス不思候ヤト思シメ
シテ清シ入奉リ深夜ノ光修何夏ニカト有シカハ苦居承答テ宣
分濁レル世ニ生シテ無シ夫ノ決言カナシ決信ノアタラ報セシタメイ
カフテトナラントキマセシニ斗コソ威光目出タラハイカナ
初使ナリ若内裏ニ系タニハスハ生ク世ニ此西ツナトカハ報セ
サルヘキ此内親キハヤテモアリ有ヘシイカ成初使成トテモ二度共
系ニ初使ニ度及ハテ天下卒夜ノ内王去ニアラスト云夏十
シサノミハイカト官ノハ苦居然相ノ色ハ殊ノ外替リワハ

折帝内前ニ栂楯ヲ並シタリシヲシフトリ口ニラクニテハラクトカニ
クタキツニトニクワツトハキカクハキキサクノハタチニ火輪ト十
ツテ妻戸ニニ尺斗綱アカル僧正見玉ヒ洒水ノ印ヲムスニテ
ハシノミヤウシユセシカハ火輪ハ消ニケリヤナ若妻戸ハ山上
ノ布坊ニ今ノモアリト因ユル

上宮太子

六八

故欽明天皇三十二年正月一日ノ夜半ニ所夢想ノ告有金也僧來

王后ニ告テ宣ク我ニ救世ノ願有別后ノ沖胎内ニヤトルヘシト
 有シカハ^{アハルナシ地ニモ}后答テ宣ク^{アハ}セシカ胎内ハ垢穢也イカテ尊キ由穢
 シヤトシ玉ハト有シカハ僧重テ宣ク我ハ垢穢シイトハス唯ノ
 ソムラクハ人間ニ志別セシカタメ也后穢スルニ所ナシトモ角モ
 ト有シカハ此僧大キニ悦テ^{アハ}后ノ沖口ニ飛イリタラト^{アハ}沖穢
 シテ曉月軒ニカヤキ松楓^{アハ}後シヤフツテ又更ノ天モアケニケリ
 帝此由因百悦ノ色シナシ玉フ^{アハ}后カチラス^{アハ}シヤウラ^{アハ}シ^{アハ}玉フ
 ヘシテ有シカハ^{アハ}兵行駒^{アハ}シツナカ^{アハ}子ハ^{アハ}大跋提河ノ池ノ水ステテ
 濁シル如クニテ十二月トヤニハ^{アハ}南殿ノ由麻^{アハ}ニテ^{アハ}由麻^{アハ}年^{アハ}女^{アハ}皇子^{アハ}沖
 使生ナルムニヤトノ^{アハ}皇子^{アハ}トヤ^{アハ}モ^{アハ}上^{アハ}宮^{アハ}太子^{アハ}ノ^{アハ}沖^{アハ}幸^{アハ}

鴻池

サシキハシリ六九

北ニ向ハ八鷹金ノ雲路ヲ分テ帰ル山アラチノ山ノアラタ^{アハ}ノ
 年ノ初^{アハ}比^{アハ}ナシ^{アハ}侍^{アハ}ニ^{アハ}花^{アハ}カ^{アハ}ト^{アハ}疑^{アハ}フ^{アハ}ハ^{アハ}清^{アハ}穢^{アハ}ル^{アハ}雲^{アハ}ノ^{アハ}木^{アハ}自^{アハ}山^{アハ}東^{アハ}ハ
 吹^{アハ}下^{アハ}風^{アハ}ノ^{アハ}ハ^{アハ}ケ^{アハ}シ^{アハ}キ^{アハ}ニ^{アハ}カ^{アハ}ス^{アハ}ニ^{アハ}又^{アハ}月^{アハ}ノ^{アハ}ヨ^{アハ}ヨ^{アハ}ノ^{アハ}海^{アハ}南^{アハ}ヲ^{アハ}遠^{アハ}ニ^{アハ}見^{アハ}渡^{アハ}セ^{アハ}ハ^{アハ}ニ^{アハ}上^{アハ}大
 上鏡山見洲ニ夏ノ床ノ山イサト答テツメトモ契リハヨソニモル

山程モノナタノナワカシクシノフシモヒシ志賀ノ古里ニ花園
ノ花ヤナル流ト思ヒナカラノ穰ニツツ四ヤ物ニ程流ヤ比叡山
ト甲ハアニリ名高キ山ナレハ詞モ及カタシ彼山ニツクヒテ次
オニホシ見渡セハ横川ノ水介ホカトヨ比良ノ漆ノ川音ハ
鼠ヤトモニ流シ松岩ノス波ノウチシロ神トイハフモシラ
髪ノ沖ナル松ノ高嶋ヤユキノ森ノ鷺スラモワカコトクヒ
トリハ音シヨモナカシ彼ヨリモ是ヨリモ只此鴻ノ石カクキ童
男化女カ舟ノ内ニスハカヘラシト折言ヒケシ遠來宮トヤトモ

是ニハヨモニサラシ行ノ清水イハホニカニ青苔青山雲ニカハツテ
イツシモトモニ青キ海ノ緑樹流シツテハ臭モ指ニホリ月
海上ニウカシテハ兔モ波シハシレリスヘテ耳ヲシ目ニ見ル
事ノイツレカハ大慈大悲ノ折々願ニモルハ幸ヤアハ

香推

七十

下珠ト云ハ白キ玉満珠ト云ハ青キ玉豊姫ト石大臣ニ持セホ
ラセテ三日ト甲ニ龍宮ヲ出ル皇后ニホラセサセ玉ヒケリ彼豊姫

トハハ川上ノ明神ノ御夏ア比へノ磯良ト甲ハ籠前ノ國ニテハモカ
ノ嶋ノ明神常陸ノ國ニテハ麻嶋ノ大明神大和ノ國ニテハ春日ノ大
明神一辨分所同辨異名アラハシテ御代ヲ守リ玉ヘリ其後
后宮仲敷天皇ノ御爵ヲ赤モ取出シカス井ノ濱ニテ推永ノ三枝ニ
シキ奉リ玉ヒシニ此香椎ノコウハシキ夏諸方ニ滿々ニテ逆風ニモリス
ナル園生樹ニモコトナラス叔コソ此浦モトハカス井ト云ケル香ハシキ椎
ノ字ニ書政メテ今迄モ香椎ノ浦風ノ治ル御代ト成トカヤ

横山

七一

通交鏡ニアラハシタリ是ノ御守ノ鏡ナル又我朝ノ其初陸原
ノ中將ニ条ノ后ニホリシライカ成人カ大君ニワケノシクシノヒシノ
髪サシタル科ヲセラレ遠流ノ身ト業平ハ東國ニ下リテ入間ノ
郡ニ吉野ヤ今ノ川越ノ山家ノ歸ニ有シニ里ノヲサノヒトリ姫
儲ノ君トモテナセハ鄙人ナリトイヘ共其秋ラウタケテ心ニササケ
石明ノ月ニカハサヨ時雨ヤモメ男ノアクカレテ宵々毎ニ通ヒチ
ノ関守ニ姿ヲ見ヘシト狩衣ノ袖ヲ赤カツキ指貫ハソハシ高ク取

足ハヤニ歩ニ行ツカ君カ子ヤモル窓ノ隙カイニミ又レハツニシアル迄
ハキ又ハ夜々ノ別トナレハ戀シクテニ土口野ノ田面ノ鷹モヒタフル
ニ君カニ旅ニソヨルトナクナルソレハ秋カハノ声妻戀ノ所ノ
心ナリ又夏州ノ玉江ノ芦ノ声アシク語りナハ當座ノ恥辱家ノ
恥ヲシクイハシ唯酒ノフテアツハ

太刀堀

七二

先味方ヨリノ謀ニ軍ハ明日ト筋ケレハ歌ハ秋ト心得テ其夜ハ共ニ

陳シトハカレハ味方ニハ無勢カシテ多勢カシテスヘキ其謀ヲ廻ラスニ
沐曾殿ノ御陳ヨリ東ノ方ヲ見渡セハ比ハ安永二年正月半ノ
夏ナリ夏山ヤシケキ五月葉ノ陰ヨリ元朱ノ玉垣ホ見ヘテ斤ツ
キ作ノ社檀右トハ當家ノ御氏神ハ幡大菩薩羽生ノ宮トア
也沐曾殿頼母敷思石叔ハ比軍ニカタシ夏ハ安定ノ急キ社檀
ニホリテ願書シコメト宣ヒ覺明トコソ召シケレ見明作隨ヒ
申シヌキタカヒモニ掛鏡ノ引合ヨリタフ紙ヲ取出ヤヒラタル
矢立ノ筆下シ墨ニ添願書ヲ書テ奉ル抑比覺明ハ七

元正三本三

本ハ南都ノ住侶ニテ法相終字ノ其外和漢ノ才覚有シカハ水ヲ
流スコトクニ願書ヲ書テ讀上ル。木曾殿悦ヒシハ之ニ御鎬
矢ヲ宝前ニ示ラセサセ玉ヘハ御供ノ兵共モ上箭ノ鎬ソ一ツ
宛彼宝前ニ捧テ南無阿彌陀佛ノ頂礼ハ情大菩薩トテ皆禮
拜シ示ラス。去程ニ夜入ハ敵ニ大勢ト見ヘシ為ニ千匹ノ牛ヲアツ
クテ皆角ノ先ニ火ヲトモテ追拂ヒ玉ヘハ先虚空ニ満クテ。五月ヤ
ニ覺束ナクモクラキ夜モクラカラ又星ヲアツムルハ敵大勢ト心得サ
シテフカリ得サリニ今井ノ四郎六千余騎。追々ヨリ時ヲ

作シハ海ノ林ノ五万余騎一度ニ時トツト合スルハ敵トル物モ取アヘス
クワカラカ谷ニハツト落馬ニ人々六馬落重リク。七万余騎ハ
クワカラカ谷ノ深キヲモ濤ノ成程ムメタリケリ

奇ノ占 サレノ年ハヒリ 七匹

須臾ニ生滅シ刹那ニ離散ス恨メシキカナヤ釈迦大師ノシテコノケウ
シ忘レ非シキ哉。焔ノ法自皇ノカセキノ詞ノ因タ名利物ヲ知クレトモ
未北芒ノ煙ヲ免シス恩恵心ノ懸セ去誰カ黄泉ノ責ニ随ハサル是カ

為ニ馳走ス刑得イクハクノ利ソヤ是ニ依テツイクス刑作多罪
ナリ皆目シフサイテ性夏シ思ハ回友皆忘ス指ヲ折テ故人シ
カソフシハ親疎多ク隠シヌ時移夏去テテ今ナシソ淋滝タラ
ニヤ人留リ我ユク誰カ又常ナラン三男無女猶如火宅天仙
ナシシ死苦ノ所也況ヤ下方貪賤ノホウニ於テシヤナトカ其
罪カコカラシ死ニ苦ミシ請重業ニ悲ミ移ソフルサスイ地獄ノ
苦ハ向中ニテ切夏千段シテ血糞藉タリ一日ノ其ウチニ
一死万生タリ釘樹地獄ノ苦ハ千ニ釘ノ木ヲヨトシ八百節

更ニ落ス足ニカ山ノ時ハ千ニエ丘ニケストカヤ石割地獄ノ苦
ハギリヤウカイノ大石諸ノ罪人ノ碎次ノ火盆地獄ハ頭ニ火焰
イタケハ百節ノ骨ヲヨリエシクタル火ヲ出ス右時ハ焦愁大
焦子ツノホホニムセヒ有時ハ紅蓮大紅蓮ノ氷ニトナラシ鉄
杖頭ノ碎キ火燐アノウラシヤノ飢テハ鉄丸ヲ吞渴シテハ
羽汗ヲ吞トカヤ地獄ノクニミハ無量ナリカキノ苦モ無邊也
畜生終羅ノ悲ミモ我ホニイカテニサレキ所ナリ也セル科
ナレハ心ノ鬼ノ所ヲ責テケ極ニ苦シハ受ルナリ月ノ夕ノ浮雲ハ

後ノ世ノ言ヒ成ヘシ

七丈一町作多羅ナリ哲ク目シ

源ノ源氏

七四

イトモ賢キ叔ヨリ^テ二十ニテ初冠高麗國ノ相人ノ付^テ初ヨリ
光源氏ト名^シヨハル^ハ中ヨリ^ハ常木ノ卷ニ中將紅葉ノ賀ノ卷ニ正ニ位
ニ叙セラ^レ花ノ宴ノ春ノ夜ノ行エモシラテ八月ノシホロケナラヌ
又繁リ
二年亦且ト申セシニ津^ノ西源^ノ方浦^ノ登人ノ叙^シ勿^クニツミテ
次^ニ春^ノ播^ルテ^ハ明^石ノ浦^ツモ^トハス^語ノ^後シ^サヘ^ウツ^クニ^語ル^人モ^ナシ

法^程ニ^天下^ニ奇^特ノ^告有^シカ^ハ又^都ニ^召カ^サレ^牧ノ^外ノ^官シ^ヘテ
其^後亦^續ル^シツ^クニ^内大臣^シ女^ノ卷^ニ大^政大臣^ノ友^ノ表^ノ葉^ニ
太^上天^皇カ^ク樂^ミシ^キハ^テ克^君ト^ハ申^也

近江八景

七五

行^田浦^ノ物^也ノ^中ヨリ^家路^ニ帰^ルル^ハ遠^浦ノ^所既^カト^亦録^メ
雲^ノ村^ノ合^ルル^ハ夜^ノ雨^ノ名^カ如^カ扱^比敷^山ノ^鐘ノ^声シ^遠寺^ノ境^ノ
鐘^カト^キソ^シ唐^倚ノ^剛倚^ニツ^ハサ^シタ^ルハ^沙鷗^子砂^ノ

唐鴈ニ是ヲナソラヘ扱。洞庭ノ月ニ後ノ山ヲタトヘタリ。誰ヲ漢村。
夕照ニ釣タルモトハ思フヘキ。

實方

七八

在厚ノ業平ハ其心余リテ詞ハダラス。碎ハシホム花ノ色ナフテ
句終ニ異ナラス。字治山ノ花探リ。就ハ。詞カスカニテ。林月雲ニ
イ。野小町ハ妙成花ノ色好。今ノ振サヘシウナニテ。只弱ト後
トカヤ。大伴ノ白鳥ハ新シク。山人ノ花ノ法ニ休テ後。日ヲマ送。

ルラニ是ヲハ和奇ノ詞ニテコロノ花ヲ頭ス。千種ヲウラ。吉野ハ
唐花ハ通ソ。理ノ尾コソノシホリソシルヘナル。

初瀬六代

サレノ年シニ

七九

初瀬ノ産色ワクク思。世中ハ流竹。常ノ理。彼ニ見ユ。親子ノ
夏初ノ時。ト下。魚テハ角ト思。凡。彼別ニ成。時ハ。思ヒ。心モサウセテ。只
クシクトタヘカヌ。胸ノ火ハコカレテ。血ハ消ル。心ニ。産ニテモ我。子ノ失
ハレトシケルトハ。シ。凡。行ヤサリ。芸ノ。頼ヲ。掛ラ。モ。赤。マ。只。頼。メ。南。々。ヤ

大慈ノ親世音ノ影ノ本ヨリノ清物ニ任セツル念彼親音カカドク
印カク大偏ラセ玉ハスハ銀ヲモシラセテ我子ヲ物玉ハヤカリケル也
一人来リウツル夜ニ来リテアセハ清母モイカニクト宣ハハ清悦ニ
成テリ駿河ノ千本ニテステニ切レサセ玉イシシ上人其財ニ物ヲハヤメテハ
リシリ悦ム教ヲ書ニテ物ラセ玉フ由アセハ母モ余リノ事ノ心ニヤ娘
シトクニモ年ハス只此終トアキレツル者難ノ事ヤト千シ合セ玉フ夜
ニモ覺ス落ノ涙ノ跡キ袖ツクニホサヌヤ泪成流
七太夫カスルカノ千本ニテステニ

高砂

八十

高砂ハ余ノ一調ト遠シ祝言ナレハヒヤキトカロクサレサレサレニツミテ
サカス叔甲ヨリサ大被ノ舎人サカロククアヒノ年ハシリサ切曲年
シヤキトサ

物ニ長能カ言葉ニモ石情此情ノ其声皆奇ニモル、夏ナニ草
木云砂流セイスイシ返万物ノコモ心有リ春ノ林ノ東風ニ動キ
秋ノ虫ノ北露ニナリモ皆和奇ノ染ナラスヤ中ニモけ松ハ万本ニ
勝レテナハムノ松ヒ千秋ノ緑ヲナシテ古今ノ色シニス始白茅ノ

位ニ高キハ是ハ笛ナキ時ノサ振ニ高キテ月と流して上程
 内大教令ノサ持テ扇ニ吹テ吹クサハ 其の吹の云々ハ
 萩乃家ノをよこして又吹サ 俣りもさうく 扇の吹出乃言し
 荒りやわし扱ハ初し 打表表右おき人ハ成るそや扇とは
 空のや何とてう無ハそのおとあこくと無ハそのおと
 笛有時ハ曲ハ笛ナキ位ニサ常ニ吹サ有サ振有
 笛有時ハ右ハ一調一管ハ 一調一管ハ元江口ヲサガヨシ

御宮 八二

サしめ常曲舞儀ハ大教令ノ有 秋の節管ハ大教令ノ有
 甲ニテ色エテハ門ヲシトル年 サししてニツミサキサハししてハ
 林表乃をうろしニツミモ甲ニテ走ニテ各ス年ニモサ 秋年ハ一ツ拍サ
 曲笛ハ之 一撃サハし玉音ノ年タクリニ同率 花車ハニテ
 又クアシライサ上控ハサハヤハト視ハ け冬又協ハ大教令ノ有サ
 しかキハ表表 車の前後よそつとよりそハ甲ニテクサカケシトス
 人々あつえよみ付つ甲ニテクワケサ振サ

年成西一ノナリルニ 啓[○]美[○]のト[○]紙[○]見[○] 勢[○]滿[○]及[○]以[○]手[○] 雅[○]和[○]法[○]
の者[○]亦[○]別[○]君[○]才[○]ホ[○]テ[○]アリ 啓[○]美[○]の[○]勢[○]と[○]う[○]ち[○]あ[○]つ[○]や[○]

○○○○ヤヘイ○ヤロア○マ 寝[○]ハ[○]布[○]り[○] 汝[○]使[○] 先[○]高[○]ナ[○]キ[○]町[○]ノ[○]ナ[○]ニ[○]

神[○]風[○]ヤ[○]ン[○]セ[○]の[○]内[○]外[○]の[○]鳥[○]居[○]よ 石[○]ノ[○]平[○]ノ[○]ク[○]タ[○]リ[○]親[○]世[○]掛[○]大[○]事[○]ノ[○]

又[○]車[○]ヨ[○]ウ[○]チ[○]高[○]ク[○]大[○]宅[○]の[○]か[○]と[○]を[○]や[○]ぬ[○]く[○]ん[○]大[○]宅[○]の[○]か[○]と[○]を[○]

尚[○]町[○]ノ[○]彼[○]年[○]一[○]酒[○]ノ[○]ナ[○]上[○]地[○]次[○]ナ[○]ニ[○] ○○○○○○ヤ[○]ハ[○]寝[○]ハ[○]

印[○]ヨ[○]リ 以[○]外[○]平[○]ノ[○]ク[○]タ[○]リ[○]右[○]同[○]左[○]ニ[○] 加[○]擲[○]ノ[○]類[○]を[○]書[○]キ[○]綱[○]ト[○]ス[○]也

楚野

サ[○]シ[○]ヨ[○]リ[○]印[○]連[○]曲[○]舞[○]ガ[○]ん[○]お[○]事[○]か[○]ろ[○]ー[○]甲[○]テ[○]是[○]ニ[○]サ[○]切[○] 御[○]定[○]結[○]合[○]と[○]成[○]

一ツ[○]シ[○]ト[○]ル[○]甲[○] 山[○]と[○]ん[○]り[○]外[○]り[○]志[○]あ[○]り[○]や 世[○]の[○]習[○]ノ[○]ニ[○]ス[○]年[○]

寺[○]ハ[○]楳[○]の[○]シ[○]ヨ[○]リ[○]之[○]南[○]と[○]遠[○]ル[○]御[○]定[○]ハ[○]成[○] 福[○]初[○]の[○]山[○]の[○]次[○]ナ[○]ニ[○]ツ[○]又[○]キ[○]紙[○]

も[○]祝[○]シ[○] 又[○]祀[○]の[○]云[○]々[○]ナ[○]ク[○]成[○] 志[○]も[○]ち[○]れ[○]祝[○]慶[○]也[○]常[○] 海[○]ノ[○]情[○]を[○]

ノ[○]更[○]ノ[○]前[○]シ[○]ツ[○]メ[○]テ[○]シ[○]テ[○]是[○]レ 人[○]ヤ[○]志[○]ル[○]亦[○]常[○]ノ[○]成[○]テ[○]位[○]ニ[○]サ[○]あ[○]く[○]ト

送[○]ル[○]大[○]紋[○]ノ[○]會[○]尺[○]ニ[○]ツ[○]モ[○]ツ[○]モ[○]サ[○]先[○]ハ[○]尚[○]ナ[○]キ[○]町[○]ノ[○]ナ[○]ニ[○]サ[○]擲[○]之[○]尚[○]町[○]ノ[○]次[○]位[○]

ニ[○]サ[○]ニ[○]志[○]心[○]カ[○]の[○]所[○]地[○]ナ[○]ツ[○]メ[○]テ[○]成[○]ヨ[○]リ[○]天[○]台[○]ス[○]ル[○]也 根[○]常[○]ノ[○]如[○]ク[○]成[○]地[○]成[○]ル[○]ニ[○]

而志ろくき^ニ行流^テモ 面白^ヤと^レ神の^ニ声の^ニ又^ク改^テ改^テと
キ上ハ^ニ職^ト通^ル杯^ノキ上ト^ト同^ニ事^ト思^フハ^ハ修^ル勢^トと^レ物^ノ神^ノ ^{カシラ}
夏^ノ告^スる^ヤ ^キ也^ト常^ニ通^ル

玉音

つ調^フ声^ク

八五

アノ^ニ祇^{ヨリ}キ^カシ^テ一^ノ声^一一^ノ夜^ニ直^ニ誠^ニキ ^キ極^有
意^深ク ^キ初^メ々^々ハ^ハ知^ルヤ^ヤ地^ヲツ^メテ^テ改^{ヨリ}春^又キ
此^レも^ハ發^スコ^イ合^フ 面^ヲ新^ニニ^ニ夜^メ ^キと^とと^と地^{ヨリ}行^流ス

わ^らぬ^やつ^の祇^礼發^スク^改キ^上 ^キ又^ハ高^瓶の^音聲^方の ^キ切^キ
思^ハおも^り一^ノ只^一身^一お^とつ^のむ^くひ^のつ^やす^くの^うら^らふ^よ
む^くひ^のつ^やす^くの^うら^らふ^よ ^{カシラ} ^キあ^とと^とと^と
永^くも^も改^テ改^テハ^ハえ^またり ^キ ^キ心^ヲま^まの^むら^う ^キ

笛^ナキ^ハ時^ニ祇^言ノ^座改^ニテ^テ因^口ノ^音聲^キキ^キ極^キ甲^{ヨリ}キ^カシ^テ
又^シヨ^リキ^ニク^サリ^ニク^サリ^キ ^キナ^カシ^テ上^テ是^也
又^ニ書^目ノ^音聲^モ ^キキ^アタ^キキ^ヨリ^キカ^シ甲^一ク^サリ^キ ^キ六^ノ下

一ツサリサ又甲ヨリ一ツサリサテ名高路ニテト丸シラメテ
ト丸ナラハ物乙付テシラメテ居之

座敷ニテ乱拍子テ極ノ事

座敷ニテ世間拍子テ極ハ世間拍子ニクサリサテ中ノサ上ニテス
是座敷ニテノ世間拍子ノテ極也

